

流域下水道管破損事故対策検討委員会（第 1 回）

議事要旨

日時：2025 年 9 月 29 日（月） 10～12 時

場所：TKP 新橋カンファレンスセンター12 階 カンファレンスルーム 12A

1. 開会

- ・神奈川県竹内河川下水道部長より開会挨拶。

2. 委員紹介

- ・事務局より委員について紹介。

3. 委員長選出

- ・森田委員を委員長に選出。

4. 議題

(1) 委員会の進め方について

事務局より、委員会の進め方について説明し、了承された。

(2) 事故の概要について

事務局より、事故の概要について説明し、事故内容が確認された。

○委員からの主な意見

- ・事故後の下水の流量変動について、流域下水道の上流部と下流部を含めて確認するべき。

(3) 現在の対応状況について

事務局より、現在の対応状況について説明があり、議論が行われた。

○委員からの主な意見

- ・下水管内部のカメラ調査は、流量が大きく変化する大雨の後などにも実施するべき。
- ・空洞調査は、新たに設置したボーリング孔から水平に調べる方法もあり、この現場でも適用できるのかを検討するべき。
- ・現在実施している地中レーダ探査や表面波探査では、深い場所の空洞を捉えるのは難しいので、他の調査の可能性も検討するべき。
- ・地盤変状の予兆を把握するため、直上の雨水管等、他の埋設物の応力やひずみ等を計測することも検討するべき。
- ・深い空洞は確実に掴むことが難しいので、地盤変状の予兆を捉えたらすぐに通行止めなどの体制を組めるようにしておくべき。
- ・復旧方法の検討のためにも、破損箇所付近でボーリング調査を行い、地盤の物性値や地下水の状況等を把握するべき。

- ・復旧工事の検討を行う際に必要となる地下水の流向・流速についても、今のうちから把握しておく必要がある。
- ・止水対策を進める上で、地盤と注入材の相性があるので、試験練り若しくは、試験注入等の検討も必要である。
- ・下水管の強度を評価する数値解析については、地盤の状況や、裏込め材の注入状態なども考慮し、別の解析手法も検証すべき。
- ・ウレタン系の止水剤を使用する場合は、周辺の水環境の状況を確認すべき。

(4) 復旧工法の検討について

事務局より、復旧工法の検討について説明があり、議論が行われた。

○委員からの主な意見

- ・神奈川県や相模原市において、管理者として求める条件が整理されると、復旧工法の方向性が決まってくる。
- ・復旧工事に関する周辺住民への説明や問い合わせ対応の進め方についても工法検討に併せて準備検討されることが望ましい。

(5) その他

事務局より、住民説明会の開催について、報告があった。

以上